

《写真で見る杵岐南》



★ 2023.2.12 ふら〜つとカフェ杵岐南 8周年 ★

杵岐南校区自治協議会だより

みなみかぜ

第185号

* 発行者: 杵岐南校区自治協議会
* 発行責任者: 新里幸吉
〒819-0032 福岡市西区戸切2-18-20 (杵岐南公民館内) ☎811-0336
http://blog.zaq.ne.jp/ikiminami/



どのように逃げますか?

避難行動要支援者をサポートへ

自主防災推進会は今年度、6月に出前講座「杵岐南校区の防災対策」と、11月に「防災倉庫点検活動」の事業を行いました。
2月19日に今年度の締めくくり事業として「避難行動要支援者」

者、杵岐消防団代表、障がい者避難所の指定を受けているマナハウス、西区社会福祉協議会職員、西区役所防災担当職員と、合わせて35人が参加しました。
杵岐団地南自治会と野方南3区自治会から、それぞれの地図を使って「災害時に避難行動要支援者」にどのようなサポートができるかを想定した発表がありました。
両自治会の発表後に意見交換を行いました。そこでは①避難するときには食料や毛布の準備も...と呼びかけると、「それなら自宅でなんとかやり過ぎ」と言われた②要支援者の名簿に載っていない同居する家族から「構わないで



自主防災推進会として次年度はまず、それぞれの自治会で「図上訓練」を行うことから取り組みたいと考えています。
(自主防災推進会)
※避難行動要支援者とは、大規模な災害が発生したとき、高齢者や障害者など要配慮者のうち避難について特に支援を必要とする方。

まちごと ガーデニングフェスティバル 2023



杵岐南文化振興会主催の「まちごとガーデニングフェスティバル」を下記のとおり行います。
あなたのご自慢の作品を、ぜひたくさんの方に見せてください。

- 日時 4月22日(土)~23日(日)
会場 杵岐南小学校南側 外花壇
受付 4月22日(土)9時から 現地(作品を展示された方には粗品を進呈)
23日(日)12時からガーデニング相談会

電話 (812) 0686 (杵岐南校区文化振興会)

ほぼ3年間開催を中止していた「ふら〜つとカフェ杵岐南」の本格的再開です。
昨年12月に第8波が来る前におさるおさる開催してみましたが、広報が十分でなく、利用者21人スタッフ28人というこじんまりしたカフェになりました。その後、感染者増があり「もうダメか!」と思われましたが、この後、感染者が激減し、拡大のおそれもあまりなかったため、実行委員会ですら「やらかったら、再開の機会はない」と、強引に決定。地域への広報を行い、カフェの実施にこぎつけました。

感染者はさらに減少し、地域のつどいを目的にしている「ふら〜つとカフェ杵岐南」には喜ばしい環境となっています。さらにマナハウスの協力も継続して得られる見込みも立ち、「再開」というキーワードに導かれています。
2月12日のカフェは利用者50人、スタッフ35人と、それなりの参加実績をあげました。この時点でのサービスは、まだ満足できるものではありませんでしたが、3月にはお弁当の再開や体操の復活などこれまでに近い、サービスの拡大を計画しています。対象が高齢者なのでできませんが、初期の立ち上げのときに、「やろう!」という気持ちや皆さんの絆を強く感じています。
3月、4月、5月と継続して開催予定です。あなたの笑顔でみんなを励ましましょう。

※3月も開催し、お弁当復活にたくさん笑顔がありました。
「ふら〜つとカフェ」本格的再開へ

ゲームで学ぶ多様性



男女共同参画推進会議と人権尊重推進協議会は、2月18日に公民館で「クロスロード・ダイバーシティゲーム」を行いました。このゲームは阪神・淡路大震災後、神戸市職員への聞き取りから生まれた「クロスロードゲーム」の応用です。
地域や学校、サークルなどで何か問題が起きたとき、あなたはどのように判断しますか?
5人ずつのグループに分かれ講師の読み上げる問題を聞きます。「私ならこうする」と決め一斉にYESかNOのカードを出します。それを一人ずつ順番に理由を発表し、その後意見を出し合うという流れでゲームが進みました。
例えば「神輿の担ぎ手がいないため、祭ができない。近くの女子大から担ぎ手の申し出があった」としたら、祭りの責任者であるあなたは女子学生にお願いしますか(YES) それとも断りますか(NO)という問題がありました。
グループ内で1対4になったり、2対3になったりします。意見を聞いて「なるほど」と同意したり、「いや、私が正しい」と発言したりしました。
このゲームで、何が問題かに気づくことや想像力を働かせること、そして自分で決断することが大事、ということがわかりました。また、周りに流されることがなく、自分の意見をはっきり伝えることが必要です。それは日頃から訓練しておくべきことだと思います。
とても貴重なカードゲーム体験でした。皆さんも一度体験されてはいかがでしょうか。

往還往来

3月13日から、コロナ対策としてのマスクの着用は個人の判断で、となりました。テレビのニュースで見ると街の様子は、マスクをつけている人が多いようになっています。
先日区役所に出かけたとき、車の中にマスクを忘れてしまい、焦りました。「えい、まよ」と区役所に入りましたが、まわりの目が気になって仕方ありません。「いやいや、自分で決めていいんだ」と思っても「何か言われたらどうしよう」と、弱気な自分がいまいます。そのときふと茨木のり子の詩の一節「自分の感受性くらい自分で守れよ」を思い出しました。政府や専門家がいうから、みんながつけているから、他人に迷惑をかけたらいけないから...と、なんでも他人のせい。自分で決めること。のなんと難しいことか。せめて外ではマスクをはずさず、と一大決心をしました。「初心者」とお笑いください。(桜)

- これからの主な行事
4月9日(日) 統一地方選挙投票日
4月11日(火) 人権尊重推進協議会総会
4月21日(金) 戸切人権のまちづくり館 自治協議会第20回通常総会
4月22日(土)~23日(日) まちごとガーデニングフェスタ
杵岐南小学校外花壇
各自治会、諸団体総会

あおぞら

社協
ニュース
No.159

4月からの活動もコロナ次第

《第2回 理事会》

2月28日、壹岐南公民館で本年度2回目の社会福祉協議会理事会を開きました。

国内で初めて「コロナ」の感染者が確認されたのは、2020年1月16日でした。あれから3年が過ぎました。5月8日からは感染法上の位置づけが現在の「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行することに決まりました。さて、どうなるのでしょうか。

理事会では2022年度の事業報告を了承していただき、続いて任期満了する役員改選について、現役員が全員留任する提案を承認していただきました。そして、新年度の事業計画を「コロナ」以前の活動への復活を意図して提案し、承認されました。

校区にある8つの「ふれあいサロン」と2つの「カフェ」も、それぞれボランティアスタッフの工夫と努力で活動を再開していきます。

来年度の活動も「コロナ」との闘い(?)になりそうです。

マチには私の訪問を待っている人がいる

Ⅱ 民生委員・社協懇談会Ⅱ

2月17日に、民生委員児童委員と社会福祉協議会との今年度2回目の懇談会を壹岐南公民館で開催しました。

校区には17人の民生委員が任命されていますが、12月1日に10人が交代しました。そうしたこともあり、まず社協、民生委員の基本的なことについて学び、その後自己紹介や活動してみた感想など情報交換を行いました。



老後・介護を語る映画会-FUKUOKA/シアター映画祭

ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえりお母さん～

初めて訪問して大変喜んでもらえたこと、逆に訪問を断られたこと、新任の委員さんは「こんにはは民生児童委員です」というチラシの裏に、自分の名前と電話番号を書いてとりあえず一軒一軒まわり始めた、と報告されました。

新里会長は「孤独死」に遭遇した体験談を話しました。孤独死を防ぐには、あるいは早期発見するためには何が必要かなど、考えさせられました。

【認知症について】
2月5日に壹岐南公民館で上映された映画「ぼけます」

このところ活躍の場がない、配食ボランティアの懇談会を3月3日に壹岐南公民館で開催しました。公民館の調理設備の関係で、調理作業が密になることが避けられません。そのため長期間、ふれあい弁当を作るのができていません。今後の配食事業も今のところ未知数ですが、「次年度こそ再開したい」という意見も少なくありません。

◎キッチンハット作りました◎

ー 配食ボランティア懇談会

このところ活躍の場がない、配食ボランティアの懇談会を3月3日に壹岐南公民館で開催しました。公民館の調理設備の関係で、調理作業が密になることが避けられません。そのため長期間、ふれあい弁当を作るのができていません。今後の配食事業も今のところ未知数ですが、「次年度こそ再開したい」という意見も少なくありません。

そこで、調理するときにかぶるキッチンハットを、ボランティアグループなどでこの有馬捷子さんに教えてもらい、みんな楽しく



編集後記

このままコロナは収束に向かうのか？それともまた猛威をふるうのか？誰にもわからないながら、感染法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じになるそうです。日常生活が一変したこの3年間は「みなみみかぜ」としても苦勞の連続でした。それでも少しずつコロナとのつき

再開を待っていたかのように危篤状態となり、14日に91歳で亡くなりました。死の間際に良則さんが文子さんの手を握り「おつかあ、あんたが女房で本当にええ人生じやった。ありがとう」と言ったとき、文子さんは一筋の涙を流します。良則さんは現在102歳で健在とのことでした。

「痴呆症」という名前が日本で公的に「認知症」に変わったのは2004年でした。認知手になつたら何もわからなくなる、といった認知症への絶望的な認識が社会全体で変わり始めています。認知症を深く理解した家族の優しい言葉や対応によって、症状が好転し穏やかな暮らしをしていらつしやる事例がいくつも報告されています。

●あなたも賛助会員に！●

社会福祉協議会では高齢者も若者も、子どもも障がいをもっていても、みんな快適に暮らせる「あたたかいまち」を住民の皆さんとつくっていきたく考えています。活動資金の一助となる「賛助会員」を募集しています。会費は一口1,000円です。会費のうち50%は校区社協の、残りの50%は西区社協の福祉事業費として活用します。趣旨に賛同される方は、公民館窓口にお申し込みください。

西区社会福祉協議会
賛助会員加入のお礼
(令和5年1月1日～2月28日)

個人
橋垣 和子・山崎 巖
ありがとうございます。

事務局ボランティアを募集しています
社会福祉協議会では、地域の福祉活動に興味のある方を募集しています。
ぜひご連絡ください。
【連絡先】新里(にいさと) 西〇八〇一七〇九〇八三七

合い方がわかってきました。そして、4月からは徐々にコロナ以前の生活に戻れるのでは？という淡い期待を持っています。
この3年間の経験を生かし、「まちづくり」に役に立つという初心にかえって活動していきたいと思えます。